

令和 2 年度 第 1 回江別市かわまちづくり勉強会 会議録（要点筆記）

日時	: 令和 3 年 1 月 1 9 日（火） 1 8 : 0 0 ~ 2 0 : 0 0
場所	: 江別市コミュニティセンター 1 F 多目的ホール
一般会場参加者	: 18 名（参考：かわまちづくり協議会委員 4 名 一般参加 14 名）
一般オンライン参加者	: 5 名
事務局	: 経済部長、経済部次長、商工労働課長、商工労働課主査（2 名）、商工労働課主事、契約管財課長、建設部管理課参事、（観光振興課長 ※オンライン）
その他	: 北海道開発局 札幌開発建設部 江別河川事務所（3 名）、国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課（1 名）、リバーフロント研究所（1 名）

会議概要

1. 開会
2. 議事

(1) かわまちづくり協議会と勉強会について（説明：事務局 川島商工労働課長）

(2) 江別市街築堤の整備について（説明：江別河川事務所 倉本流域計画官）

(3) かわまちづくり支援制度について（説明：国土交通省 堀江河川環境教育係長）

【上記(1)～(3)に関する質疑応答】

- ・ 参加者：堤防整備にあたり立ち退きが進んでいるが、完成時期を知りたい。
- ・ 吉田計画課長：土を盛るだけであれば、同規模の堤防整備を他の箇所で行った実績では 2 年程度で完成しているが、すべての土地・建物の補償が完了していないので、完成時期は明言できない。条丁目地区については、土地・建物の補償を終えしだい整備したいと考えている。
- ・ 参加者：平成 27 年 11 月 5 日の堤防整備についての会議の際に、築堤工事が始まって 10 年程度で完成すると聞いていたが、それから変更になったということか。
- ・ 吉田計画課長：当時の説明では、石狩大橋上流から順次堤防を整備し、千歳川に入り、早苗別川合流点付近まで順調に進めば 10 年程度で完成すると伝えていたと思う。先程説明した 2 年程度は、あくまで条丁目地区に係る堤防整備に必要なとなる期間を、同規模の堤防整備を他の箇所で行った実績を踏まえ説明したものである。

【事前に受け付けた「外輪船の移転スケジュールや移転先」に関する質問への回答】

- ・ 川島商工労働課長：旧岡田倉庫を解体・移転して保存する場合、順調にいても最低でも 2 年程度の工事期間が必要になる。令和 3 年度中に移転先の土地確保や各種調査を行い、早ければ令和 4 年度に解体工事に着手し、そこから 2

年程度で今の形に復元されて再び使用できるようになると想定している。

【事前に受け付けた「江別市街地区の将来的な位置付け」に関する質問への回答】

- ・ 川島商工労働課長：都市計画マスタープランの中で「総合的な治水対策や地域資源を有効に活用した地域づくりを推進する」「地域と連携を図って特性を活かした江別駅周辺の地域核を形成する」と位置付けている。また、昨年度策定した観光振興計画の中で「条丁目地区の歴史的建造物を活用した拠点を形成し、歴史のまちという切り口で江別駅周辺のイメージづくりを行う」と位置付けている。かわまちづくり計画を策定し、水辺空間に集ってみんなで有効活用していこうという考え方を反映して堤防を整備していくことも、江別市で考えている条丁目地区の将来のまちづくりの一つの方向になると考えている。

(4) 意見交換（司会：事務局 岩村主査）

【千歳川や条丁目地区でやってみたいことや困っていることについて】

- ・ 参加者：国土交通省からの説明で、色々な町でかわまちづくりの取り組みが行われていることを知ることができたので、今後も変わらずこの町で、みんなに魅力的な町だと思ってもらえるような取り組みをしていきたいと思う。
- ・ 参加者：今、子育てをしているが、子どもを連れて遊びに行けるような場所があればよいと思う。子どもたちは川に気づいていないので、子どもたちの記憶の中に川が残ってくれればと思う。
- ・ 参加者：条丁目地区に住み始めて、江別は川がある町なのだ強く感じている。外輪船も含めた千歳川の歴史や魚・鳥等の自然の豊かさが垣間見られるような場所が川のところにあればよいと思う。未来の子どもたちのために、豊かな川の暮らしができればよいと思う。
- ・ 参加者：近隣の幼稚園は散歩で川のそばまで来ているので、公園とか休憩施設があればいいと思う。王子製紙の広い敷地の中に人が休憩できるようなベンチがあってもよいと思う。
- ・ 参加者：散歩していると怖いくらい人がいないので、桜並木や散歩道等が整備されて賑わってくれればと思う。
- ・ 参加者：堤防整備が進んでいく中で、情報があまり入ってこないのが不安で、そのような状態では未来のことは考えられない。今日、このような場ができたのは非常によいことで、この場で話し合ったことをオープンにしていく方法があれば、今までと進め方が変わっていくのかもしれない。
- ・ 参加者：外輪船の移転がどのようになっているのか、移転先はどこなのか、いつまで使えるのかが一番気がかりである。
- ・ 参加者：旧岡田倉庫は、堤防整備に伴って解体するということだが、築堤工事が始まって残る予定の母屋の貸し出しはできるのか。利用の問い合わせが来ても断っている状況なので、早く結論が知りたい。
- ・ 川島商工労働課長：令和3年度については、現状のまま母屋も含めて利用できる

る予定である。旧岡田倉庫の解体工事に入るのは令和4年度だが、現時点で工事方法が決まっておらず、移転工事中に母屋を安全に利用できる保証がない。令和3年度に各種調査を進めて工事方法が決定されるので、決定次第、旧岡田倉庫活用民間運営協議会に連絡する予定である。

- ・ 参加者：旧岡田倉庫の利用・管理・運営は自分たちでやらないといけないので、若い人たちの力が必要である。若い人たちがやってくれるのであれば、リーススペースでもよいのかもしれない。
- ・ 参加者：川のそばに文学的なものがあればよいと思う。
- ・ 参加者：まちのギャラリーのように、歴史・文化を伝承していくような場所があればよいと思う。若い人たちが集まる場所があって、興味を持つような企画を仕掛けて仲間にしていくやり方もある。外輪船の施設管理をしてもらいなからテレワークできそうな気もする。
- ・ 参加者：これから数年かかる事業なので、工事現場で何が起きているのかを知り、身近に感じる事が大事である。
- ・ 参加者：条丁目地区には古くから住んでいる方がたくさんいると思うが、新しい人が外から入ってくることに実際どのように思われるのか、個人的に気になるので知っておきたい。
- ・ 参加者：人が集まる空間として、若い人たちに定住してもらえそうな環境を作るのがいいと思う。みんなが自由に交流できるような感覚で、母屋をシェアハウスやコワーキングスペースで使ってもらえると、新しい素敵なアイデアが生まれてくると思う。
- ・ 参加者：旧岡田倉庫と母屋を一体で活用していかないと、生きてこないと思う。行政は簡単に諦めないで、一体どれだけの費用が掛かるのか真剣に調べてほしい。クラウドファンディングの利用もすごく親和性が高いと思う。
- ・ 参加者：条丁目地区の住民は、色々なものに対して敬意を払って生きてきていると感じる。条丁目地区で育った子どもたちにまた住んでもらって受け継いでいくことを考えた時に、何を残して何を捨てていかななくてはならないかを考えなくてはならない。外輪船を残してきちんとした形で活用していかないと、子どもたちの負担になっていく。
- ・ 参加者：千歳川の対岸にある江別河川防災ステーションで土日にイベントが開催されて賑わっているが、江別駅から歩いてくる人にとって敷居が高い。堤防整備と合わせて人と自転車が渡れるような橋があれば、相乗効果が期待できる。先程、幼稚園の川沿いの散歩の話が出たが、千歳川を渡るのもよいかもしれない。江別河川防災ステーションとセットで考えて、双方Y方向にもっていく仕組みづくりの議論をする必要があると感じる。
- ・ 参加者：江別河川防災ステーションには良い直売所があり、年配の方々が買いに来たりしているので、小さな橋でもあったらいいと思う。

【今後の勉強会の進め方について】

- ・ 参加者：気軽に来られる会という話があったが、会場に入った時に気軽さを感じなかった。もっとふらっと来られるような場所で最新の情報が得られ、そこで地域全体のことを語ったり作戦を考えたりする場があったら、理想的である。
- ・ 参加者：外輪船はどうか。
- ・ 参加者：江別市の広報やホームページでも十分だと思う。若い人たちのグループでミニコミ誌を作っても面白いかもしれない。
- ・ 参加者：町内会でこういう話ができれば、地域の人たちも安心できると思う。
- ・ 参加者：条丁目地区は成熟した地域で、町内会の中できちんと回覧板が回っていて、根っこでみんな繋がっているのだと思う。それが、地域の人たちに対して安心を与えているのかもしれない。排他的に受け取られることもあるが、一旦中に入ってみると、全然そんなことはない。私の元気があるうちにかわまちづくりが進んで、この町に色々な人がたくさん来て賑わってくれればと思う。堤防が整備されて、私の夢である桜並木ができて桜まつりが開催できれば、非常にうれしい。
- ・ 参加者：かわまちかわら版のようなものが回覧板で回れば、みんな平等に知れ渡ることになる。
- ・ 参加者：江別市コミュニティセンターにかわまちづくりに関する情報公開用のコーナーを作って、意見をもらう意見箱のようなものを置いてはどうか。人前では中々言い出せなくても、自分の思いを伝えたいという人は必ずいるはずなので、そういう声を拾い集めてよりよい方向で結論を出していくのが良いと思う。
- ・ 参加者：かわまちづくり支援制度がどういうものなのか、もう少し詳しく知りたい。色々なところでまちと川が一体となってやり始めているのであれば、生の話を聞きたい。
- ・ 倉本流域計画官：本日いただいたご意見を踏まえて、オンライン等を活用した先行事例の紹介を検討したいと思う。
- ・ 吉田計画課長：補足として。先程橋の話が出たが、橋を架ける場合費用が膨大になり、維持管理も大変になると思う。渡し船や潜り橋も考えられるので、全国の事例を確認したいと思う。
- ・ 参加者：事例だけ見せられてそれだけで終わるのはもったいないので、もう少し、やりたいことや目指すところを皆さんから意見をいただいたその場で絵にすることも考えたい。もう少し具体的に、こんな町になったらいいのではないかというのをイメージした上で、会の後半で事例紹介があった方が、より頭に入ると思う。
- ・ 参加者：現状で新しい組織があるわけではないので、既存の組織がスライドし

でやっている事例、町内会でやっている事例、若い人を引っ張ってきてやっている事例、地域の方々が思い描いているイメージを実現している事例が一番参考になる。若い人を連れてくるのは難しい。一時的に興味があって来て興味なくなったらどこかに行ってしまうような人が来てもらっては困る。地域に入ってずっとやってくれる人を育てるそのノウハウを知りたいし、知っておかないと現実的な議論ができるかどうかに関わってくる。条丁目地区の方々がやりたいことをもう一度描いて「見える化」して共有するのもありだと思う。その上で、実現するためにはどうすればいいかという話をしていく必要がある。

3. 閉会

以上

令和2年度 第2回江別市かわまちづくり勉強会 会議録（要点筆記）

日時 : 令和3年3月23日（火）18:00～20:00
場所 : 江別市コミュニティセンター 1F多目的ホール
一般会場参加者 : 23名（参考：かわまちづくり協議会委員5名 一般参加18名）
一般オンライン参加者 : 1名
事務局 : 商工労働課長、商工労働課主査（2名）、商工労働課主事（2名）、契約管財課長、建設部管理課参事、（観光振興課長、観光振興課参事 ※オンライン）
その他 : 北海道開発局 札幌開発建設部 江別河川事務所（3名）

会議概要

1. 開会

ミズベリング江別 林代表に勉強会の司会進行を委任

2. 議事

(1) 前回勉強会の振り返り（説明：事務局 岩村主査）

(2) かわまちづくり先行事例の紹介（説明：江別河川事務所 倉本流域計画官、秋山技官）

【上記(1)～(2)に関する質疑応答】

- ・ 参加者：河川空間への店舗の常設は、仮設の場合と許認可のレベルが違うと思うが、どういう仕組みなのか知りたい。かわまちづくり計画や運営の考え方のレベルをどこまで引き上げる必要があるのか。
- ・ 倉本流域計画官：河川空間の有効活用を目的として、河川敷地占用許可準則が改正された。仮設店舗であれば、洪水時に撤去できることが原則である。本設店舗の場合、洪水時に流されて下流に被害が及ばないように、洪水に耐えられる構造かどうかが目安になると思う。地元の意見を最大限尊重しながら、河川管理者として実施可能な対応をしていきたいと考えている。
- ・ 林代表：できることとできないことがあって、それを判断するためにまず意見を言うことが重要で、今日はそのタイミングだと思う。建物が立ったとしても、コンビニやカラオケ店が入っていいということにはならない。川で何を行うのが良いかを地域の人みんなで一緒に考えていくという最初のステップを勉強会でやっていくということだと思う。既に立ち上がっている「江別市かわまちづくり協議会」に今回の勉強会での意見を挙げて、そこで合意してもらい、整備に反映させることになると思う。
- ・ 参加者：整備に係る資金について、現時点でわかっていることを教えてほしい。
- ・ 倉本流域計画官：河川管理者として実施可能なのは側帯、階段、舗装等の基盤整備までであり、建物については民間事業者にやっていただくことになる。

- ・ 林代表：資金投入してもよいという民間事業者を呼び込むためのビジョンが必要になってくると思うので、河川管理者、江別市、地域が一体となって考えていければと思う。
- ・ 参加者：かわまちづくりの事例紹介のあった山形県や新潟県は降雪地であるが、冬期の有効活用に関する事例はあるのか。
- ・ 倉本流域計画官：砂川かわまちづくりでは、冬期に遊水地でワカサギ釣りを行っている。駐車場も河川管理者が基盤整備として実施している。冬期の事例について情報収集を行い、次回の勉強会で報告する、
- ・ 参加者：整備したものを10年単位で持続して活用していくためには、失敗事例や当初の見込みから思うように進んでいない事例から学ぶことも必要だと思う。
- ・ 林代表：かわまちづくりを運営している人にしかわからないことを聞くことはできないか。
- ・ 倉本流域計画官：失敗事例と合わせて、かわまちづくりの運営で苦労した話等を情報収集し、次回の勉強会以降になるかもしれないが、可能であればオンラインでその運営者との意見交換を行わせていただきたい。
- ・ 参加者：江別市街築堤の整備に伴う外輪船や旧岡田邸母屋の移転の決着がつかないままミズベリングのことを言われると少ししらけてしまうので、民主的な手続きを踏んで早急に決着をつけた上で、整備を行ってほしい。
- ・ 川島商工労働課長：勉強会での皆さんの意見を協議会上げ、これから策定するかわまちづくり計画の中に可能な限り活かせるよう議論を進めていきたい。
- ・ 林代表：かわまちづくりの最新情報が常にオープンな状態にあるのが非常に重要であり、かわまちづくりコーナーを活用しながら進めていければと思う。

(3) 意見交換しながらのドローイング（司会：ミズベリング江別 林代表）

【意見交換の内容】

- ・ 林代表：年1回ミズベリングで弁天丸でのクルージングをやっているが、そのような形で川と親しむのは良いことだと思う。川から見た条丁目地区は雰囲気が全然違う。
- ・ 参加者：何年か前に弁天丸に乗ったことがあるが、船に乗って水辺や周りの風景を見ながら川を楽しむことができた。天候に左右されるが、6～9月の暖かい時期に週1回でも船に乗れば楽しいと思う。
- ・ 林代表：対岸の江別河川防災ステーションにあるような船着き場が条丁目地区側にも欲しい。
- ・ 参加者：実際にSUPやカヌーをやっている人がいるので、そういったアクティビティの拠点にしたり、先程話の出た遊覧船の頻度を多くしてもいいと思う。
- ・ 参加者：石狩川は全国でも珍しく川でヨットに乗ることができ、昨年の春までヨットクラブがあったが高齢化で廃部になってしまったので、復活させたい。

- ・ 参加者：昔は灯籠流しをやっていた。駅前の薬局が開催したアイスキャンドルと合わせて、夏は川で冬は陸でといった形で年2回楽しめると思う。灯籠流しを実施するにあたって、何か制約はあるのか。
- ・ 倉本流域計画官：川の水質に影響があるものは流せないが、自然に優しい材質であれば実施可能だと思う。
- ・ 参加者：アイヌの方々への追悼の背景もあるが、灯籠流しをやるのであれば8月が良いと地元から要望が挙がっている。
- ・ 参加者：エコな素材の灯籠が1個600円くらいで販売されているようなので、家族でひとつ購入してそれに思いを込めて流すとかでもよいと思う。
- ・ 参加者：昔、お盆の時期にお供え物を川に流しに行った際、灯籠流しをした。
- ・ 参加者：条丁目地区で昨年お祭りが中止され、色々寂しい思いをしているので、灯籠流しやアイスキャンドル、イルミネーションといった地元住民が楽しめる活動の動き出しを早くやっていきたいと思う。
- ・ 参加者：小樽運河で毎年開催されている灯籠流しでは、2時間経つと水に溶けてロウソクが燃え尽きる灯籠が使用されているので、そういうものであれば川の水質に影響はないものと思われる。
- ・ 参加者：川だけでなく面としてやっていかないとダメだと思う。例えば、JR江別駅を中心として、アイスキャンドルや江別神社の御神水、ゲストハウス等の宿泊施設の整備をやって、将来的に川に向かって商店街を形成するようになれば良いと思う。
- ・ 林代表：灯籠流しやアイスキャンドルといった、夜まで楽しめる時間づくりが大事だと思う。
- ・ 参加者：土堤に出店を出せれば、灯籠流しを見ながら色々楽しめると思う。
- ・ 林代表：数年前にミズベのロングマーケットをミズベリングで開催したが、その時のテント形式でもできるかもしれない。
- ・ 参加者：イベントをやろうとする時に足枷となるのが対岸との往来であり、人道橋が絶対必要だと思う。
- ・ 参加者：人道橋で対岸とつながると、堤防で川を一周することができる。
- ・ 参加者：江別河川防災ステーションの屋上から美原大橋を見ると、北海道電力の電線が視界に入ってくるので、改善できればと思う。
- ・ 参加者：去年開通した南大通大橋も非常に景観が良い。
- ・ 参加者：堤防が近所の保育園の散歩コースとなっていて、堤防整備によって川岸公園がなくなるのを寂しく感じている。堤防でそり滑りができるようになれば、冬も遊べるし夏も親子で楽しめる。子どもたちが安心して遊べる場所の需要はあると思うので、そういう場所をデザインできれば魅力的だと思う。
- ・ 参加者：年配の方と一緒に子供を安心して遊ばせられる場所があればよいと思う。遊具も含めたアイデアがあれば面白いと思う。

- ・ 参加者：条丁目地区には温泉が豊富に湧いている。昔は温泉銭湯が何件かあったが、今はなくなってしまった。公園に足湯のような温泉施設があれば、幅広い世代が楽しめると思う。
- ・ 林代表：堤防の側帯部分に広場空間が色々なところであれば、面白いと思う。
- ・ 参加者：JR 江別駅から川までの人の流れができればと思う。条丁目地区の中だけでなく外からも人が来ることによって、商売にとっても良いと思う。
- ・ 林代表：誰に条丁目地区に来てほしいかの視点が重要である。
- ・ 参加者：江別には、鉄道・川・道・情報の4つの駅があって、条丁目地区は情報発信の拠点になりえるので、若い人に行動で示してもらえたらと思う。
- ・ 参加者：昨年、JR 江別駅を起点として江別神社や四季のみち、旧町村農場等まで歩く江別ウォークというイベントが開催され、参加者が500人以上もいて盛況であった。これからはマイクロツーリズムの時代であり、近場で小予算の旅行が主流になるので、今後も継続していくのが望ましいと思う。
- ・ 参加者：JR 北海道の方で、各地区でJR ヘルシーウォーキングというイベントを以前から開催していて、江別地区では美原や篠津の方までの広範囲のコースでいつも500~600人が参加している。江別河川防災ステーションを必ずコースに入れてもらっていて、直売所で買い物をする参加者が多数いる。
- ・ 参加者：焼物市が新型コロナウイルスの関係で休止している。駐車場の問題もあるが、堤防側帯のところで焼物市や陶芸を開催できれば楽しいと思う。
- ・ 参加者：夏場のイベントも場所が移ったり休止したりしているので、大きな目標を決めて問題があれば随時改善していくことが必要だと思う。
- ・ 参加者：千歳川には珍しい野鳥も来ているので、写真愛好家の誘客ができないか。外輪船へのコスプレイヤーの誘客も考えられる。
- ・ 林代表：Soupの2階にあるお茶室の雰囲気は非常に良く、新しい条丁目地区の魅力になると思うが、今後のビジョンには何かあるか。
- ・ 参加者：天気が悪い時は室内、天気が良い時は野点をするといったことも可能だと思う。江別神社の御神水を使ってお茶を点てることもやりたいと思う。
- ・ 林代表：条丁目地区の水でお茶を点てて、川でみんな一緒に飲むというのがひとつのブランドになりえるので、新しい名称をつけてもよいと思う。
- ・ 参加者：条丁目地区は江別の奥と思われている地元の方がたくさんいるが、私は情緒と歴史のある街だと思っている。江別の奥ではなく奥江別と言えば良いイメージになると考え、1年半前から個人的に活動を始めている。お茶会、サイクリング、ミュージック等のおしゃれなロゴを作って活動している中で一番定着してきているのが、Soupの2階のお茶室で、毎月恒例でやっている奥江別茶会である。それがきっかけで、旧岡田邸の古い茶室を復元してお茶会をやるようなことも考えている。もうひとつ定着してきているのが、毎週木曜日に開催しているアイヌの刺繍会である。

- ・ 参加者：どんなに素晴らしいものを作っても数年で尻すぼみになるかもしれないので、最初からやり直しや方向転換が可能な形で整備に取り組むべきだと思う。
- ・ 林代表：あまり作り込まず、例えば広場にしておけば様々な活動ができるし、色々な人が参画できる運営組織も大事だと思う。
- ・ 参加者：ボランティアを参画させて、雑草取りや芝刈りをしてもらうのもよいと思う。声を掛けたらやってくれる人はたくさんいると思う。自分たちが支えているという気持ちを持つ人がいれば、続いていくと思う。
- ・ 参加者：クラウドファンディングも使えると思う。
- ・ 林代表：江別の中でものづくりをしている方が結構いるので、川沿いにそういった歴史・文化・アートギャラリーが半常設であってもよいかもしれない。
- ・ 参加者：条丁目地区周辺を島、川沿いを港、江別駅を空港と捉えて、それらを繋げるフットパスを作って外から人に来てもらうのもよいと思う。
- ・ 参加者：地元の様々な意見を取り入れながら、お金をかけないで事業転換できるようなことを考えなくてはならない。
- ・ 参加者：条丁目地区周辺を周遊できる仕組みを作って、外から人に来てもらうことだと思う。カヌーやヨットをやりながら自転車での周遊やバーベキュー、温泉等を楽しむといった環境が重要だと思う。
- ・ 参加者：他に転用がきいてお金がかからないという点で、市民ファームのように気軽に土いじりができるような場所があればよいと思う。
- ・ 参加者：近くの保育園の先生に、どういうものが水辺にあればよいかヒアリングしてもよいかもしれない。残念ながら、若い世代の人が勉強会に参加していないので、色々な人に関わってもらった方が良い勉強会になると思う。
- ・ 参加者：色々なアイデアを持続的にどうやって進めていくのかが重要であり、かわまちづくり計画を策定していく中で誰がやるのかを決めていく必要がある。昔条丁目地区にあった、生活の中に川あるいは水を取り込んで水のある川と近い暮らしを取り戻すというところを骨組みにすると持続性に繋がるし、それにどうイベントを付加していけるかだと思う。
- ・ 参加者：誰かが来ればよいというよりも、自分の暮らしを水に近づけると言うことが重要であり、この街ではできると思う。日常の暮らしが水に近いという形でやっている街はないので、条丁目地区を外から見ると特徴があって面白い、だから行こう過ごそうという流れになればよいと思う。

(4) 今後の勉強会の進め方について（説明：事務局 岩村主査）

3. 閉会

以上